



〈研究〉印度ニ於ケル中央銀行問題(2)

海老原, 竹之助

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 25(2):279-286

(Issue Date)

1918-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052922>



印度ニ於ケル中央銀行問題 (其二)

商學士 海老原 竹之助

三 時勢後レノ現行紙幣發行制度

次ニ中央問題ト關聯シテ考フベキハ現時ノ紙幣發行制度デアル、即チ多クノ先進國ハ何レモ銀行發行制度デアルノニ印度ハ未ダニ時勢後レノ政府發行制度デアルガ爲メニ。

(一) 銀行業者トノ關係ニ於テ密接ノ度ヲ缺ク
(二) 紙幣ノ發行ニ必要ナル自然的伸縮力ナキ

等ノ不便ガアル、從ツテ商賣ノ繁忙期ニ入り資金ノ需要多キ時ニ手形ノ割引ニヨリテ自然ニ紙幣ノ流通ヲ多カラシムルト云フ銀行發行ノ場合ニ於ケルガ如キ自然的伸縮性ヲ缺イテ居ルト云フハ是レ亦中央銀行ヲ設立シテ紙幣ノ發行ヲ司ラシムベシト云フ議論ノ發生ヲ促ス一ツノ有力ナル理由トナツテ居ル。

更ニ詳シク現時ノ紙幣發行制ヲ説明スレバ、政府ハ全印度ヲ七區ニ分チ、各區ニ一個ノ發行局ヲ設立シテ其域内ノ發行、兌換ノ任ニ當ラシメテ居ル。今發行局所在地及其區域ヲ示セバ左ノ如シ。

カルカッタ——ベンゴール、東ベンゴール、アッサム等

カウンボアー——ユナイテッド、プロビンセス

ラホガアー——パンジャブ、北東國境諸州

マドラス—マドラス、及コールガ

ボンベイ—ボンベイ、及中央諸州

カラチ—シンド

ラングーン—バーマ

而シテ各區ノ紙幣ハ其域内ニ於テノミ紙貨デアルガ（一九一〇年印度法幣條令第十五條）一般的紙幣即 Universal Currency Note ト稱セラル、五留比、十留比、五十留比ノ紙幣ハ英領印度ノ如何ナル所ニテモ法貨タルフトナツテ居ル（紙幣條令第二條）是レ蓋シ印度ハ頗ル廣大無邊ノ地デアル且ツ農業國デアレバ資金ノ繁忙期ハ土地ニヨリテ同一デナイ、從ツテ多額ノ紙幣ガ繁忙ナル土地ニ集マツタ時ニ十分ニ其兌換ノ任ヲ盡サントスルニハ、準備金ヲ常ニ繁忙ナル地ヲ追ウテ運搬シテ行カネバナラス。此不便ヲ避クル爲メニ紙幣ノ融通區域ヲ限定シタノデアル、然シナガラ斯クノ如キ規定ハ他面ヨリ見レバ紙幣ニ對スル人民ノ「ポビュラリティー」ヲ減ズル次第デ、然ラデダニ紙幣流通ノ割合ニ少ナイ印度デハ寧ロ煩瑣ニ過グルノ嫌ガアル。（紙幣ノ自由ニ流通スルノハ主トシテ都市ニ於テノミデ、内地ノ買付等ニハ今尙ホ現金（銀貨又ハ金貨）ヲ持ツテ行カネバナラス不便ガアル）而シテ此等ハ實ニ中央銀行設立論者ニ對シテ一ツノ大ナル理由ヲ與ヘテ居ルノデアル。

四 現行制度ノ缺陷ト中央銀行問題

斯クテ現行制度ノ缺陷トシテ左ノ六項ヲ擧ゲテ居ルケーンズ氏ノ所論ハ誠ニ肯綮ニ中レリト云フベキデアル（註八）。

(一) 現在ノ如ク紙幣發行上ノ責任者ト一般銀行業者トヲ分離特立セシメテ置クハ近世銀行ノ一般ニ實行シテ居ル所ト相反シ、從ツテ或點ニ於テ種々ノ弱點ヲ有スル制度タルヲ。

(二) 更ニ兩者ノ分離ハ政府準備金ト銀行準備金トノ分離特設ヲ必要ナラシムルガ故ニ種々ノ不利益ヲ惹起スルニ至ルヲ。

(三) 且ツ現行ノ制度ハ金融上ノ伸縮力ヲ缺クノ嫌ガアル、而カモコノ伸縮力ハ銀行ヲシテ紙幣ヲ發行セシムルヲ依リテ容易ニ得ラルベキ性質ノモノナルヲ。

(四) 更ニ中央銀行ノ無キハ政府ヲシテ其現金殘高及流動資金ヲ有効ニ使用セシムルヲ困難ナラシム、蓋シ政府ニシテ其餘分ノ資源ノ全部ヲ擧ゲテ普通ノ個人事業ノ手ニ委スルガ如キハ甚ダ慎重ノ態ヲ缺クガ爲メデアル。

(五) 且ツ中央銀行ノ無キハ一國ノ銀行政策ノ一般の方針ノ缺如ヲ招クニ至ラシム、蓋シ市場ヲ組成スル各單位ハ何レモ自己ノ利害ノミヲ打算シテ如何ナル場合ニモ自己ノ職責トシテ全體ノ利益ヲ考フルモノ無キガ爲メデアル。

(六) 終リニ中央銀行ノ當局者ハ多年ノ經驗ヲ有シ之レヲ以テ往々政府當局者ニ財政上ノ勸告ヲ與フルヲ稀デナイガ今中央銀行ノ無イハ上記ノ經驗及勸告ノ無イヲ意味スルカラ政府當局者ニトリテ尙一個ノ不利タルヲ免レナイ、蓋シ政府ニハ財政經濟ノ研究ヲ以テ一代ノ事業トスル様ナ人ガ少ナイ、大藏大臣ノ如キハ市民中ノ成功者ガ偶然ニ占ムルニ至ルノ席デアルカラデアル、更ニ具體的ニ云ヘバ印度省ノ大藏大臣ノ如キハ往々ニシテ財政上ノ經驗ヲ有セザル者ガ之レニ就ク、而シテ

其無經驗ノ頭腦ヲ以テ財政上ノ特種ノ問題ニ遭遇スルノ有様デアル、之レガ正當ナル解決ヲ見ルニ至ルヤ困難ナリト云フベキデアル、而シテ留マルヲ五年、漸ク其事務ニ通ズルニ至ルヤ忽チ他省ニ轉ズルニ至ル、カクテ印度政府ノ實狀ニ就テ見レバ其財政經濟上ノ問題ハ多クハ智識アル素人ノ手ニ依リテ所理セラル、ト云フモ過言デハナイ有様デアル、サレバ重要ナル問題ノ起ル毎ニ權威ノ中心ハ倫敦ノ印度省ニ移リ行クニ至ルハ敢テ驚クヲ要シナイヲデアル、其結果印度省ノ役人ハ印度ニ居ル財政當局者ヨリモ印度ノ幣制金融ニ關スル十分ノ智識ヲ有スルニ至ルノデアルガ遙カノ英本國カラ印度ノ財政金融ニ關シテ一々指揮命令スルト云フヲハ適當ナル制度デハナイ。蓋シ平生、印度ノ實狀ニ接觸シテ居ナケレバ適當ナル所置ニ出ヅルヲハ困難デアルカラデアル。

是レ須ク中央銀行ヲ設立シテ上記ノ缺陷ヲ除去シ銀行政策ノ大方針ヲ確立シテ印度經濟界ノ大柱石タラシムベシト論ゼラル、ト茲ニ久シイ所以デアル。吾人モ是等ノ論者ト共ニ其必要ヲ感ジ、印度ノ利益ノ爲メニ其設立ノ一日モ早カラント切望シテ已マナイモノデアル。

(註八) Keynes:—Indian Currency and Finance;—p. 236—8.

五 反對論ニ二種アリ

然シナガラ如何ナル問題ニモ反對論ノナイモノハ少ナイ、即チ其事ガ世間ノ問題トナリ、議論ヲ上下スル必要ノ存在スルト云フハ蓋シ反對論ノ存在スルガ爲メデアル、果然、此中央銀行問題ニモ反對論ガアル、其一ハ現時ノ州立銀行側カラ出ル反對論デ、其二ハ理論上カラ來ル反對論デアル。州立銀行側ヨリ出ル反對論ト云フノハ、若シ新タニ中央銀行ガ設立セラル、ニ至レバ、從來彼等ガ享受シテ居ツタ種々ノ特權並ニ利益ハ其中央銀行的職分ノ剝奪ト共ニ全ク之レヲ失フニ至ルベシ

ト云フ自己本位ノ利益論デアツテ、印度全體ノ利益ヲ主眼トスル點ヨリ見レバ、固ヨリ一顧ノ價値
タニ無イ愚論デアル。加之、銀行業ノ發達ノ頗ル幼稚ニシテ各種産業ノ發達ニ隨伴シテ居ナイ印度
ノ現狀ヨリ見レバ、煩瑣ナル州立銀行條令ニヨリテ營業上種々ノ拘束ヲ蒙ムルヨリハ單純ナル普通
銀行トナリテ自由ニ活動スル方却ツテ彼等ノ利益デアルカモ知レナイ、少ナクトモ普通銀行活動ノ
餘地ノ十分アル印度ノ現狀ヨリ見レバ、徒ラニ州立銀行タルノ地位ニ戀々タルノ必要ヲ見ナイ、況
ンヤ中央銀行設立論者ノ中ニハ現時ノ州立銀行ヲ改造シテ中央銀行タラシムベシト主張スルモノア
ルニ於テハ、彼等ハ之ニ反對スルノ理由ハ毛頭無イノミナラズ、而カモ尙ホ反對スルガ如キハ掌中
ノ玉ヲ捨テントスル愚者ニ例フベキモノデアル、以テ堂々トシテ反對スルノ理由トハナラナイ。

第二ノ理論上ヨリ反對スル議論中ニハ、論者ニヨリテ多少ノ相違ハアル様デアルガ、今一例トシ
カラチ商業會議所ノ會頭デアルウエツブ氏ノ議論ヲ舉ゲヨウ、此人ハ印度ノ幣制ト云ヘバ常ニ侃々
諤々ノ論ヲ公ニシテ居ル人デ印度幣制ノ改革ニハ大ニ貢獻スル所アル人デアル、今、氏ノ論旨ハ左
ノ數項ニ分ツテガ出來ル(註九)。

(一)印度ノ如キ廣大ナル土地ニ於テハ各地方々々ノ發達及利害關係ガ必ズシモ同一デナイガ故ニ之
レヲカルカツタ又ハテリト云フガ如キ中央首府ヨリ特種ノ地方又ハ團體ノ利益ノ爲メニ全國銀
行業ヲ一括シテ支配セントスルハ必ズシモ一國全體ノ利益ト一致シナイ、否ナ寧ロ實際上到底不
可能デアルト云フヲ得ル。

(二)紙幣發行上ヨリ生ズル利益ヲ新タナル中央銀行ノ手ニ歸セシムルハ現在ノ印度政府ノ財政上ノ
地位ヲ薄弱ナラシムルニ至ル。

(三)、(イ)倫敦ノ各銀行ガ所有シテ居ル金準備ガ割合ニ僅少ナルノ事實、(ロ)政黨内閣制度ニ於テハ政府者ヲシテ濫リニ此大問題ニ手ヲ染メシメ且ツ勝手ニ法律ヲ以テ大銀行ヲシテ多額ノ現金準備ヲ保有スベキヲ強制スル能ハザルノ事實等ヨリ見レバ、印度ノ如キ廣大無邊ノ大陸ニ於テハ二種ノ準備——發行紙幣ニ對スル政府ノ準備各銀行ガ其責務ニ對シテ保有スル準備金——ヲ存在セシメテ置クコトハ印度ノ財政上ノ強味ニシテ非常ニ必要ナルコトデアル。今若シ中央銀行ノ設立ニヨリテ兩者ヲ合シテ保有スルニ至ラバ印度政府ハ全ク中央銀行當局者ノ左右スル所トナルニ至ルノ恐アリ。

(四)更ニ印度政府ガ其財力ノ全部ヲ——現金手許殘高、金本位準備其他——一銀行ノ掌中ニ一任スルハ慎重ノ態ヲ失スル、且ツ現在ノ如ク三個ノ州立銀行(全國ニ五十四個ノ支店ヲ有スル)ヲ有スルコトハ印度政府ヲシテ其遊金ヲ最モ有効ニ利用セシムル所以デアル。蓋シ其剩餘資金ヲ各方面ニ利用スルコトハ政府ニ少シノ危險ニヨリ最大ノ利益ヲ收メシムルニ至ルカラデアル。

從ツテ今、印度ノ必要トスル所ハ中央銀行ニアラズシテ印度人ニヨリテ設立セラル、印度銀行デアル、而シテ現今民間ニ死藏セラレテ居ル巨額ノ資金ヲ市場ニ持チ來スコトデアル、自然カ、ル土人銀行ハ一般公衆ニ通貨(特ニ紙幣)ヲ利用スル方法ヲ知ラシメ從ツテ印度産業ノ開發ニ資スルコト大デアラウ。

(註九) Webb—Advance India:—p. 85—8.

以上ガウエツプ氏反對論ノ要旨デアルガ、吾人ハ不幸ニシテ之レニ感服スルコトハ出來ナイ(但シ最後ノ土人銀行必要論ハ別トシテ)、何トナレバ

(一) 印度ハ論者ノ云フガ如ク、廣大無邊ノ土地ニシテ、各地方ノ利益ハ必ズシモ一致シテ居ナイノハ、明カデアアルガ中央銀行ハ之レヲ打ツテ一團トナシ、各地方ノ特種ノ事情ヲモ顧ミズ常ニ同一ノ態度ニ出デントスルモノデハナイ、即チ力ヲ中央ニ集中シナガラモ各地ニ適宜支店又ハ出張所ヲ設ケテ其地方ノ利益ト發達トヲ計リ得ルコトハ論ヲ俟タナイ所デアアル。

(二) 又紙幣發行上ノ利益ヲ全部政府ノ手中ニ收ムルコトハ確カニ財政上ノ利益ニハ相違ナイガ、印度政府貧乏ナリト雖之レ無キガ爲メニ其地位ニ幾何ノ變化ヲ來スベキカハ疑問デアアル。況ンヤ先進國ハ何レモ銀行發行ノ制度ヲ執ツテ居ルデハナイカ、更ニ又政府ハ適當ノ方法ニヨリテ其利益ノ一部又ハ大部ヲ其手中ニ收ムルコトハ容易デアアルニ於テヲヤデアアル。

(三) 次ニ準備金ノ問題モ同様デアアル、成程種々ノ準備ヲ常ニ設ケテ置クト云フコトハ其基礎ヲ堅固ナラシムル所以デハアルガ同時ニ之レヲ十分ニ利用シ得ナイト云フ不利モアル、從ツテ準備ハ之レヲ適當ノ程度ニ止メテ置クラ可トスル、事ハ萬事石橋ヲタ、イテ渡ル程ノ用心ヲ必要トシナイ、更ニ又中央銀行ガ政府當局者ヲ左右スルニ至ラシムベシト云フハ、全クノ杞憂ニ過ギナイ、今日、各先進國ノ實狀ニ就テ見レバ自ラ明カデアアルシ若シ更ニ其怒アラバ適當ナル法規ニヨリテ中央銀行ノ行動ニ制限ヲ加フルヲ以テ足ルノデアアル。

(四) 更ニ反對ノ理由ノ如キニ至リテハ固ヨリ執ルニ足ラザルモノデアツテ中央銀行ノ基礎ノ鞏固ナラザル場合ニ於テノミ起ル心配デアアル、吾人ガ此種ノ論ニ反對スルノハ現時ノ州立銀行ガ政府ノ銀行トシテ不充分ナルガ爲メニ更ニ完全鞏固ナル銀行ヲ得ントスルニアルノデアツテ若シ新タニ出現スベキ中央銀行ナルモノガ斯種ノ心配ヲ伴フモノナラバ固ヨリ中央銀行無キニ如クハナイ、

而シテ現時ノ州立銀行制ヲ以テ政府資金ノ利用ヲ最モ有効ナラシムルト云フハ新タナル中央銀行ノ活動ノ不充分ナルコトヲ前提トスル議論デアツテ若シ運用良シキヲ得、當局其人ヲサヘ得レバ資金利用上ノ効果ニ於テ前者ニ劣ルベキ性質ノモノデナイノデアル。

六 結 論 (贊成論)

以上論ジタル所ニヨリテ吾人ノ到達スベキ結論ハ自ラ明カデアル、即チ須ク印度ニ中央銀行ヲ設立シテ中央銀行トシテノ一般の業務ノ外ニ紙幣發行權ヲ與ヘ、國庫事務ヲ司ラシメ以テ印度金融界ノ柱石タラシムベシト云フニアル、而シテ中央銀行ノ設立ハ同時ニ印度ヲシテ純然タル金貨國タラシムルノ第一歩デモアル、這般歐洲大戰以來ノ印度經濟界ノ變調ヲ見タ者ハ、誰カ現時ノ金爲替本位制ヲ以テ満足シ得ルデアラウ、予ハ二年ノ昔、已ニ本誌ニ於テ(大正五年六月號及七月號)印度ヲシテ須ク金貨國タラシムベシト論ジタルガアルガ、今日ニ於テ特ニ其感ヲ深クスルモノデアル、但シ吾人ノ論ハ「英國ノ爲メノ印度」デハナクシテ「印度ノ爲メノ印度」ヲ主眼トシテノ議論デアル、從ツテ彼ノ英國ノ爲メニスル御用學者ノ説ト相容レナイ場合ガアル、況ンヤ其御用學者ノ説ヲ受賣スル者トハ勿論相容レナイ。

然ラバ如何ナル種類ノ中央銀行ヲ設立スベキカ、換言スレバ範ヲ何レノ先進國ニ取ルヲ可トスベキカ、或ハ去ツテ現時ノ州立銀行ヲ改造シテ中央銀行タラシムルノ利害ハ如何、吾人、多少ノ説ナギニアラザレモ更ニ他日ノ研究ヲ待ツテ公ニスルコトシヨウ。(完) (大正七年四月二十一日アラビヤ海ノ瀛聲ヲ聞キツ)